



滋賀県

びわ湖を 学ぼう

びわこ 琵琶湖ハンドブック がいようばん 概要版

琵琶湖のことを幅広く紹介する琵琶湖ハンドブックの
内容を抜粋・編集して本冊子を作成しました

琵琶湖ハンドブック(本編)は県立・県内市町立図書館、県HPにて閲覧可能▶



1

びわこ
琵琶湖はどんな湖か？

「琵琶湖」と聞いて、みなさんはどのような湖を連想しますか？
大きさ、湖の成り立ち、生息する生き物、人との関わり等についてご紹介します。

□日本一『大きな湖』(1-4 滋賀県のあらまし)

さらに詳しい内容は、
琵琶湖ハンドブックへ

琵琶湖を進む船はやがて水平線の下に隠れて見えなくなります。まるで海のように地球が丸いことを実感させてくれる湖。それが琵琶湖です。

湖岸の風景も場所によって違います。山が迫る北部には岩場と入り江が組み合わさり、東岸には長大な砂浜に波が打ち寄せ、南部には街が湖に迫る風景がみられます。

琵琶湖岸の延長は約235km。ただし、道路沿いに進めば約200kmで、自転車ではおおよそ1泊2日で1周できます。琵琶湖で一番深いところの深さは約104m。南北の長さは約60km、東西の最大幅は約20kmです。

水の量は275億トン。これは琵琶湖の水を利用する淀川流域の1450万人が1日に使う水の量の約11年分に相当します。



琵琶湖の風景（琵琶湖博物館 金尾滋史氏提供）

□県中の水が集まる湖

(1-4 滋賀県のあらまし、9-4 琵琶湖と河川)

滋賀県は、伊吹、鈴鹿、比良など1000mを超える山々に周囲を囲まれ、そして中央に琵琶湖が位置しています。これらの山々に降った雨や生活等から出る水が、大小の河川を通じ、琵琶湖に注ぎます。琵琶湖の集水面積は約96%。つまり、県内のほとんどの地域の水が琵琶湖に集まっているのです。



□動いてきた湖 (5-6 生い立ち)

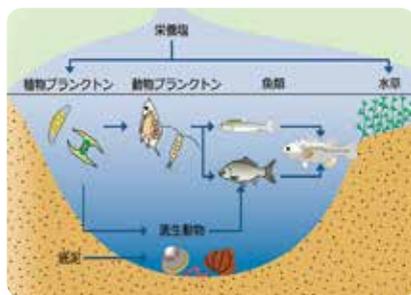
琵琶湖は世界でも有数の古い歴史をもつ湖です。約400万年前に現在の三重県伊賀市付近に浅くて狭い湖ができ(大山田湖)、その後、断層運動によって地盤が陥没する影響と土砂が窪地を埋める影響を受けながら、形状を変えて移動し現在に至っています。現在の琵琶湖は、少なくとも約40万年間この場所に定まっています。

□世界で約 20 しかない貴重な『古代湖』(1-4 滋賀県のあらし)

一般的な湖は土砂の堆積の影響を受けて1万年程度で消失してしまいますが、琵琶湖のように10年以上の歴史をもつ湖は稀です。世界でも10年以上の歴史をもち、固有種がいる湖(古代湖)は、約20しかなく、日本では琵琶湖だけです。

□生き物の『宝庫』(7-2 固有種)

最初のご琵琶湖からは400万年、現在の琵琶湖になってからでも40万年という大変長い時間の中で琵琶湖の生物の一部は独自の進化をとげ、世界で琵琶湖にしかない種(固有種)が生まれました。琵琶湖には1700種以上の水生動植物が生息することが報告されており、そのうちの60種以上が琵琶湖の固有種です。



琵琶湖の生物のつながり

□泳げる湖、遊べる湖

(2-5 水辺のあそび)

琵琶湖には「日本の水浴場88選」に選ばれた宮ヶ浜水泳場をはじめ、多くの水浴場があります。また、ヨットやカヌーなどの湖上スポーツも盛んに行われ、水浴場やマリナーには年間約70万人の方が訪れています。

湖岸沿いは平坦な道が多く、サイクリングやウォーキングで琵琶湖を1周する「ビワイチ」では、琵琶湖の大きさを体感することができます。



宮ヶ浜水泳場(近江八幡市)

memo

琵琶湖の中にはどのような生き物がすんでいるのでしょうか？
琵琶湖は生き物の宝庫であり、魚、貝、プランクトンなど多くの種類が生息しています。琵琶湖にしかない種もいます。

プランクトン

水中を漂っている小さな生き物をプランクトン（浮遊生物）と呼びます。琵琶湖には約200種の植物プランクトン、約120種の動物プランクトンが生息しています。

□ 小さな生き物の大きな役割

～食物連鎖～（7-4 植物プランクトン）

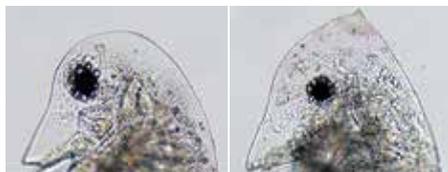
植物プランクトンは、湖沼の食物連鎖の基盤として重要な役割を果たしています。植物プランクトンは、動物プランクトンに食べられ、また、動物プランクトンは、小型の魚介類などの重要なえさともなっています。



琵琶湖の植物プランクトン(ピワクンシヨウモ)

□ 身を守るために変身！（7-5 動物プランクトン）

動物プランクトンの中には、防御の機能や戦略で捕食者から逃れようとするものがあります。その方法は、瞬間的に遊泳速度を上げる、形態を変化させる等、様々あります。例えば、琵琶湖で多くみられるカプトミジコは、頭を尖らせ変身することによって、捕食者から身を守っています。



通常の形態(左)頭の尖った形態(右)
カプトミジコ(渡辺圭一郎氏撮影)

底生動物

海や湖、河川の底にすむ動物を底生動物と呼びます。琵琶湖の底生動物は、湖の生物種の1/3以上（約700種）、固有種の2/3近く（38種）を占めます。固有種数が最も多いのは軟体動物（貝類）の29種です。（7-17底生動物）



琵琶湖の固有種(セタジミ)

魚

滋賀県には、現在65種（うち、琵琶湖には45種）の在来魚が生息しています。中でも、琵琶湖の長い歴史の中で、独自の進化をとげた魚や琵琶湖にのみ生き残った魚（固有種）は16種もいます。（7-12魚）

□琵琶湖に生息する固有種（7-2 固有種）

琵琶湖の特徴的な環境と約400万年の歴史のなかで、次の2つのタイプの固有種が生まれました。

• 独自の環境で進化した魚

特徴的な環境である沖合いや岩場へと移り住み、そこで独自の生活様式を獲得しながら新しい種類へと進化していった魚です。ビワヒガイやスゴモロコは周辺の河川に生息していた祖先種から現在の琵琶湖で進化した種であると考えられています。このような種類は「初期固有種」と言われています。

• 琵琶湖に生き残った魚

現在の琵琶湖が成立する以前から種分化が起こり、長い歴史の中で琵琶湖にのみ生き残った種です。ビワコオオナマズやゲンゴロウブナ、ワタカがその代表で、このような種類は「遺存固有種」と言われています。

□在来種を脅かす外来種（7-11 外来魚）

滋賀県では、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルなどの外来魚を駆除する取組を進めています。これは、在来魚やエビなどを食べることによる被害が深刻で、生態系のバランスを崩しているからです。



ビワヒガイ



スゴモロコ



ビワコオオナマズ



ワタカ



オオクチバス
(ブラックバス)

オオクチバスの
胃袋中の小魚、エビ



ブルーギル

学習を深める博物館などを紹介します(P18参考)

琵琶湖博物館の水族展示室では琵琶湖の環境を再現した展示をしています

memo

.....

.....

.....

.....

.....

3

びわこ
琵琶湖の生き物②

琵琶湖には、水中ですごす魚や貝などに加え、水上にみられる鳥類や昆虫も数多く生息し、そして、それらのすみかともなる植物が繁殖しています。

鳥類

滋賀県には約340種の鳥が記録されています。日本で記録された鳥類は633種であるため、国内の種の半分以上が滋賀県内でも記録されていることとなります。(7-15鳥)

□水鳥の楽園 (7-14 水鳥)

琵琶湖と西の湖は国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されています。その登録基準の1つに「水鳥の個体数2万羽以上」がありますが、冬季の琵琶湖には、その数をはるかに超える10万羽以上の水鳥が採食・休息するなど、水鳥等にとって重要な生息地となっています。



琵琶湖の水鳥



カイツブリ

昆虫

琵琶湖の特徴の一つが湖岸に生息する昆虫の多様さです。湖岸に広がるヨシ帯では、ヨシを食べるアブラムシや、それらを食べるトンボやテントウムシが生息するなど、独自の生態系が出来上がっています。

□トンボ 100 種類 (7-18 昆虫)

滋賀県には、日本にすむ約半分の種(100種)のトンボが確認されています。県単位で見ればその種数は日本の中でトップクラスです。琵琶湖には多くの流入河川があり、水環境が豊かであるため、水辺での生活に適応するトンボの種が豊富なのです。

湖北野鳥センターでは野鳥観察を通し四季折々の自然の豊かさ等を学べます

植 物

琵琶湖には、クロモなど全体が水中にある水生植物や、ヨシなど水面上に茎や葉を伸ばす抽水植物が繁殖し、水中への酸素供給や、多様な生き物の産卵や生活の場となっています。

□生き物のすみか ヨシ帯 (7-7 ヨシ)

琵琶湖のヨシ帯は、以下のような役割を果たしています。

・湖国の原風景を象徴する景観の形成、環境学習の場

四季に応じて姿を変えるヨシ帯は、湖国の原風景を象徴する景観を形成し、文化的・社会的な価値を持っています。また、生き物の観察会など、環境学習の場としても活用されています。

・鳥類・魚類などの生息・繁殖の場、希少な氾濫原植物のゆりかご

ヨシ帯は、鳥類・魚類をはじめ多様な生き物のすみかになっています。また、ヨシ帯では、季節の変化や天候によって水位が上下することから、水に浸かる時期と浸からない時期ができ、そのような土地に適した希少な氾濫原植物が生き残っています。

・ヨシ産業や暮らしを支えてきた資源の供給

ヨシは、かつては生活に欠かせない重要な資源として利用されていました。現在でも、琵琶湖地域は、国内に残る二大ヨシ産地の一つであり、夏期に日射をさえぎるためのヨシズなど、多くの加工品を生産しています。



夏:八幡水郷のヨシ群生

冬:西の湖の水郷

冬:ヨシの刈り取り

ヨシを使用した製品
(ヨシズやヨシ葺き屋根)

memo

4

びわこ
琵琶湖と人の長いつきあい

約2万6千年前から人々は湖辺に住み着き、琵琶湖との関わりの中で独自の文化と歴史を形づくってきました。水中遺跡、城や祭りから、各時代の人と琵琶湖との関わりを探ります。

□ 水中遺跡とは？ (3-1 水中遺跡 (湖底遺跡))

人々は琵琶湖の水と大地の恵みに恩恵を受ける形で、2万6千年前の後期旧石器時代から湖辺に住み着き、以来、各時代を通じて琵琶湖との関わりの中で独自の文化と歴史を形づくってきました。人々の営みは、水辺や湖底にたくさんの水中遺跡として残されました。湖中に積荷と共に沈んだ船や、水への祈りとして物を捧げた場所、地震による陸地の隆起・沈下、または水位の上昇により水没した集落などの遺跡があります。



針江湖底遺跡(高島市)

□ 縄文時代の食料 (3-1 水中遺跡 (湖底遺跡))

大津市晴嵐一丁目付近の琵琶湖底には、約1万年前～約5千年前(縄文時代早期～中期)の淡水貝塚を中心とした粟津湖底遺跡があります。貝塚は、当時の人々が食物の残りカスなどのゴミを捨てた場所と考えられ、発掘調査ではセタシジミを主体とする貝殻や魚骨・獣骨とともにクリやトチなどの木の実の皮などが大量に出土しました。

粟津貝塚の調査によって、狩猟中心の暮らしと考えられてきた縄文時代が、木の实などをより多く食料とする暮らしであったことが明らかになりました。



貝塚(セタシジミの貝殻:琵琶湖博物館展示)

安土城考古博物館や琵琶湖博物館では発掘された貝塚の展示をしています

□信長も利用した湖上交通 (3-2 城)

滋賀県内には約1300箇所かしょ しよの城があったといわれており、全国でも屈指くっしの多さを誇ほこります。その多くは山に築きずかれたものですが、織田信長の登場以降たのぶなが いこう、琵琶湖の支配しはいを目的に湖岸に大きな城が築かれるようになりました。

信長は、坂本城さかもとしょう（大津市）、長浜城ながはまじょう（長浜市）、大溝城おほみぞじょう（高島市）、安土城あつちじょう（近江八幡市・東近江市）と琵琶湖を取り囲むように拠点となる城を配置し、琵琶湖を利用する人の移動や物資の輸送くわんそうを行う湖上交通を強化しました。



坂本城跡



安土城跡と西の湖



湖上交通に利用されていた丸舟船と漁船(琵琶湖博物館展示)

□琵琶湖と祭り (3-12 祭り)

滋賀県では大津・彦根・長浜・近江八幡など湖岸部に主要な町が発達してきました。特に規模の大きな祭りはこうした湖岸の町で催されています。

江戸時代から続く「大津祭」で使われる曳山ひきやまは、三輪の組み立て式で、豪華な飾金具や外国製の見送幕などの懸装品けんそうひんで飾り立てられ、曳山に人形からくりがのるのが特徴です。これは、大津が、琵琶湖の水運の港町と東海道の宿場町として繁栄し、経済力を持っていたことを表しています。



大津祭(10月体育の日の前々日、前日)

memo

5

水でつながる文化と地域

「水と暮らしの文化」「水と祈りの文化」「水と食の文化」・・・
水に感謝をしながら育まれた文化は今も引き継がれ、そして清ら
かで豊富な水は1450万人の暮らしを支えています。

琵琶湖とその水辺景観

- 祈りと暮らしの水遺産 - 日本遺産認定 (2章トピック日本遺産)

近江盆地の中央に琵琶湖を有する滋賀県は、周辺の山麓に降った雨が河川をつたって流れ込
む水の豊富な地域であり、和の暮らしと祈りを映す「水の文化」が各地で生まれ育って、今日に
伝わっています。

・「水と暮らしの文化」

針江・霜降の水辺景観

針江・霜降地区には、豊富な湧水を謙虚で豊
かに利用する「カバタ」があります。湧水を飲み
水用、炊事用などに分け、洗い場には鯉を飼っ
て残飯を処理させて、水路でつながるお隣りや
その先の河川・内湖・琵琶湖のために、できる
だけきれいな水のまま流しています。



針江・霜降地区のカバタ(高島市)

・「水と祈りの文化」白鬚神社

白鬚神社は、琵琶湖に浮かぶ大鳥居が有名な、
近江最古の大社です。その名のとおり、延命長
寿の神様が祀られており、参拝客も多い滋賀の
絶景スポットです。境内には著名な歌人の歌碑
が多数あり、これも見所の一つになっています。



白鬚神社(高島市)

・「水と食の文化」オイサデ漁

人々の暮らしと祈りの姿を育んだ「水」は、
地域ならではの独自の生業や食文化も育んでき
ました。琵琶湖や川の河口では、接岸したコア
ユを生きのまま捕獲するため、鳥の羽をつけた
竿で網に追い込む「オイサデ漁」が春の風物詩
になっています。



オイサデ漁

日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

近畿の暮らしを支える 琵琶湖の水 (9-1 水利用)

滋賀県には510本の一級河川があり、そのうち117本が直接琵琶湖に流入します。一方で、琵琶湖から流れ出る川は瀬田川の1本だけです。瀬田川は宇治川・淀川と名前を変えて大阪湾に注ぎます。日本最大の面積・貯水量を有する琵琶湖の水は、滋賀県だけでなく、京都府・大阪府・兵庫県のおよそ1450万の人々（滋賀県の人口の10倍）の暮らしを支えています。



琵琶湖の水利用区域図

京都とつながる疏水 (9-4 琵琶湖と河川、9章トピック琵琶湖疏水)

琵琶湖の水は、人工の琵琶湖疏水からも流れ出ています。この琵琶湖疏水の目的は、東京遷都で衰退の危機にあった京都を再興しようと、水車動力・水力発電による工業の近代化、運輸の確保、田畑の灌漑利用、飲料水・防火用水の確保などでした。工事は1885年に着工され、1890年に完成に至りました。

鉄道輸送や道路網の発達に伴い、1951年には、船を用いた輸送は姿を消してしまいましたが、近年、「琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会」が設けられ、2018年春から、観光船の本格運航を開始しています。



明治期の疏水の様子 (琵琶湖博物館所蔵)



琵琶湖疏水 観光船の様子

京都市にある琵琶湖疏水記念館では建設過程や疏水の役割などを学べます

memo

6

びわこめぐ
琵琶湖の恵みをいただく

琵琶湖で行われる伝統的な漁法の多くは、「待ち」の漁法。魚を獲りつくさない、琵琶湖と長くつきあう漁法です。また獲れた湖魚はそれぞれの特徴を活かした料理で親しまれています。

□ 伝統的な漁法 (3-6 漁業の歴史、4-8 漁具・漁法)

・琵琶湖に矢印? - エリ -

琵琶湖に突き出た矢印型のエリは、琵琶湖の風物詩です。魚を迷路の奥へと誘う定置漁法は、中国大陸から伝わったと言われ、琵琶湖では、遅くとも約1500年前から行われています。



小型定置網(エリ)



明治期に描かれたエリの図
[滋賀県管下近江国六郡物産図説-滋賀郡・栗太郎]
(琵琶湖博物館所蔵)

・河川で魚を待つ - やな -

河川において扇形などに笥を設置し、琵琶湖からのぼってきた魚を川岸にあるカットリグチまたはアンドンと呼ばれる部分に誘導して漁獲します。主な漁獲物はアユです。



やな

・沖島の漁師 (2-9 島)

近江八幡の沖にある「沖島」は日本でただひとつの、淡水の湖に人が暮らす島。人口約300人、島には小学校もあります。大半の島民が漁業関連の仕事に従事しており、その暮らしぶりは琵琶湖と密接に関連しています。



沖島の町並み

琵琶湖博物館では遡上する魚の様子や漁具、川魚屋を再現した展示が見られます

□湖魚を食べる (2-2 食材)

琵琶湖で獲れる魚介類は、煮つけ、酢のもの、焼きもの、みそ汁、刺身、なれずし、佃煮、燻製等で食べられています。ビワマス、アユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミなどが有名です。



ビワマスと刺身



セタシジミ



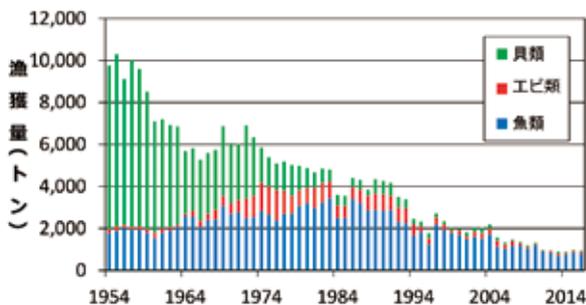
シジミのみそ汁 シジミ飯



アユと佃煮

□漁獲量を増やすための取組 (4-7 漁業)

琵琶湖の漁獲量は1955年をピークに減り続けています。今後、漁獲量が増えるように、魚の産卵繁殖場の確保、外来魚やカワウによる食害対策、過剰に繁茂する水草の刈り取りなどを実施しています。



琵琶湖漁業の漁獲量 (農林水産省 漁業・養殖業生産統計) (年)



ニゴロブナとふなずし



ホンモロコと素焼き

memo

琵琶湖は、滋賀県中のほとんどの水が集まる湖。

琵琶湖を考えるときには、水源である森や、そして水を使用する農業等とのつながりを考えることが大切です。

□琵琶湖の水源を守る (4-12 森林・林業)

琵琶湖の水は1450万人もの人が使っています。この水が途切れなく、そして良い水質が保たれるようにするには、県土の半分を占める森林を守ることが必要です。

琵琶湖の水源となる森は、天然林が6割、人工林が4割となっています。人工林は、家を建てるための木材を得るなどの目的で人が植えた木の林です。人工林を良い状態に保つには「植える→育てる→使う→植える」というサイクル（循環利用）がうまくまわることが必要です。特に大事なのは「使う」こと。木を育ててもその木が使われないのでは、森林は放置され荒れてしまいます。

滋賀県の子どもたちは「やまのこ」学習を通してこれらのことを学んでいます。



整備された森林



森林資源の循環利用イメージ

□森林環境学習「やまのこ」 (2章トピック 森林環境学習「やまのこ」)

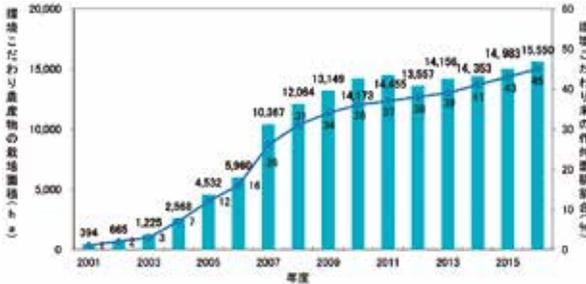
「やまのこ」学習では、小学校4年生が植物の観察や間伐体験などの森林での体験学習を通して、森林への理解と関心を深め、そして人と豊かに関わる力を育んでいます。2016年度には、県内ほぼ全ての小学校235校が参加しています。



「やまのこ」での間伐体験の様子

□琵琶湖や人に優しい農業を目指す (4-9 環境こだわり農業)

作物が病気になることや、虫に食べられるのを防ぐために農業が使用されています。また、作物をよく育てるには肥料も必要です。しかし、これらの使いすぎは琵琶湖の環境や人の体に良くない影響を与える心配があります。そこで滋賀県は農家の人たちとともに、化学合成農薬や化学肥料の使用量をできるだけ少なくするなどの環境や人に優しい「環境こだわり農業」の取組を進めています。環境こだわり農産物の栽培面積(15550ha)は、日本一の規模です。



環境こだわり農産物の栽培面積の推移



□田んぼに魚を取り戻そう (7章トピックス 魚のゆりかご水田プロジェクト)

琵琶湖のまわりの田んぼは、琵琶湖の魚にとって大切な産卵場所にもなっています。田んぼは水深が浅いので水が暖まりやすく、えさとなるプランクトンも豊富なので、生まれて間もない魚の成育の場に適しています。さらに、オオクチバスなどの外敵もいません。そこで、魚たちが田んぼを産卵場所として利用できるよう水路に魚道を設置する「魚のゆりかご水田プロジェクト」が進められています。この取組は体験学習の場ともなっており、たくさん子ども達が活動に参加しています。また、このような田んぼで、環境こだわり農業を実践するなど魚の赤ちゃんにもやさしい農法で育てたお米を「魚のゆりかご水田米」として滋賀県が認証しています。



水路を遡上するフナ



□環境こだわり農産物を食べて応援する (4-9 環境こだわり農業)

こうした取組は、多くの人が環境こだわり農業を知り、そして環境こだわり農産物を食べて応援することで、さらに広がります。滋賀県では「食べることで、びわ湖を守る」を合言葉に環境こだわり農産物の消費拡大を推進しています。

memo

琵琶湖は、私たちの生活を映す鏡とされています。大規模な赤潮を背景とした石けん運動をはじめ、琵琶湖を大切に守ってきた経験を活かし、これからも琵琶湖と共に歩んでいきましょう。

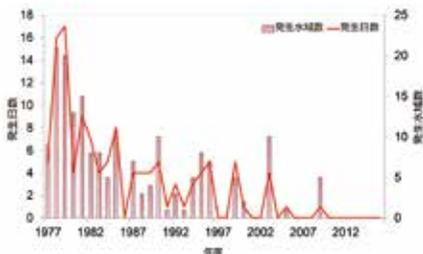
□琵琶湖を想う - 7月1日「びわ湖の日」-

(4-1 石けん運動とびわ湖の日、8-2 富栄養化問題)

1977年に琵琶湖に淡水赤潮が大発生したことをきっかけに、県民の間で原因となる「りん」の排出抑制に向けた「石けん運動」が始まりました。その運動がきっかけとなり滋賀県は世界に先駆けて富栄養化防止に関する条例を制定しました。

1981年には、条例の施行日7月1日が「びわ湖の日」と決まり、琵琶湖を守り、琵琶湖に想いを寄せる象徴的な日として様々な取組が行われています。

40年前の「石けん運動」のように、みんなで琵琶湖を守ろうと立ち上がった県民運動の原点に立ち返り、琵琶湖と共に生きていくために、それぞれの立場から、今何ができるかを一緒に考え、行動していきましょう。



淡水赤潮の発生状況

・琵琶湖をきれいにしよう

7月1日前後には、「びわ湖の日」を代表する取組として県内各地で琵琶湖や河川の清掃活動が行われ、毎年10万人以上の方々に参加をいただいています。

・豊かな琵琶湖を取り戻そう

琵琶湖の豊かな生態系を脅かす、外来動植物の駆除活動など、琵琶湖が抱える課題解決に向けた取組が行われています。



琵琶湖一斉清掃の様子

・琵琶湖にもっと関わろう

湖でのレジャー、湖魚料理を味わう、琵琶湖に関する歌を聴くなど、様々な関わりを通して、琵琶湖の魅力を感じてみてください。



外来魚駆除釣り大会の様子



琵琶湖上でのカヌー

□琵琶湖に集まる人と知恵 - びわコミ会議 -(10-4 琵琶湖の総合保全)

琵琶湖流域の保全に関わる人たちが一堂に集まって、お互いの立場や経験、意見の違いを尊重しつつ、思いや課題を共有し、琵琶湖の将来について話し合う「びわコミ会議」が、2012年から毎年8月下旬に開催されています。

□琵琶湖から世界を考える (10 章トピック 琵琶湖から世界へ、SDGs)

琵琶湖が抱える課題や対策を世界に向けて発信することは、同様の課題を持つ世界の湖沼の保全にとって重要な役割を果たします。また、国連で採択された世界共通の目標達成に向け、湖と共生する暮らしのモデルを構築していきます。

・世界湖沼会議

研究者・行政・市民等が、世界の湖沼・湖沼流域で起こっている環境問題やそれらの解決に向けた取組を議論する会議として、滋賀県の提唱で1984年に開催されました。以来、概ね2年ごとに世界11か国で開催され、富栄養化問題や人と湖沼との関係などについて議論が行われています。

・SDGs (持続可能な開発目標)

滋賀県には、近江商人の「三方よし」の精神や糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」という思想に貫かれた福祉の実践や石けん運動にはじまる琵琶湖の保全活動など、自然や人、地域を大切に作る精神風土が育まれてきました。先人の心を受け継ぎながら、SDGsの視点で取組をさらにステップアップさせることで、持続可能な社会の実現を目指します。

SDGs: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)。すべての国連加盟国が2030年までに達成すべき世界共通の目標(貧困や飢餓、エネルギー、経済成長、気候変動など)



第16回世界湖沼会議の様子 (2016年11月 パリ島)



SDGs:Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)

memo

9

びわこ
琵琶湖を知る学びの場

琵琶湖には、この冊子では紹介しきれないほどの多くの魅力があります。この冊子をきっかけに、さらに博物館などで深く学習いただければ幸いです。

琵琶湖
博物館

滋賀県立琵琶湖博物館は、「湖と人間」というテーマで、自然と文化の両方を扱う総合博物館です。国内最大級の淡水の生き物の展示、また琵琶湖の地学・歴史・環境についての展示があり、楽しみながら学ぶことができます。



琵琶湖博物館 水族展示室

WEB

滋賀県のウェブサイトでは、琵琶湖環境科学研究センターが培ってきた、琵琶湖に関する研究成果（論文、学会発表）や、水質・大気の測定結果、プランクトンや多様な生き物についての情報を掲載しています。また、直近の琵琶湖の風景、外来魚回収量などの情報は「今日の琵琶湖」のページで掲載しています。



琵琶湖環境科学研究センター



今日の琵琶湖(琵琶湖政策課)

出前
講座等

滋賀県では、様々な分野に応じて職員が講座を行う県政出前講座を実施しています。

また、琵琶湖博物館環境学習センターでは、「エコロシーガ」サイトを用いて、自然環境・水環境等の各分野に詳しい「教えてくれる人」を紹介しています。



「県政出前講座」(広報課)



「エコロシーガ」(環境学習センター)



さっし きさい ないよう
 本冊子記載の内容について

しょうかい
 学習を深める博物館等を紹介しす

見出し	No.	施設名
1章	1	滋賀県立琵琶湖博物館
	2	多賀町立博物館
	3	水のめぐみ館アqua琵琶
2章	4	湖北野鳥センター
		琵琶湖水鳥・湿地センター
3章	5	高島市新旭水鳥観察センター
	6	みなくち子どもの森自然館
	7	守山市ほたるの森資料館
4章	8	安土城天主 信長の館
	9	大津市歴史博物館
	10	大津祭曳山展示館
	11	滋賀県立安土城考古博物館
	12	下之郷遺跡公園
	13	長浜市長浜城歴史博物館
	14	長浜市曳山博物館
5章	15	琵琶湖疏水記念館※京都市
6章	16	醒ヶ井養鱒場
7章	17	近江富士花緑公園
	18	野洲川歴史公園田園空間センター
8章	19	ヤンマーミュージアム
	20	琵琶湖周航の歌資料館



湖北野鳥センター



安土城考古博物館



琵琶湖疏水記念館



今西・尾上の町と琵琶湖(長浜市)

びわ湖を学ぼう

平成30年(2018年)3月発行

発行/滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

〒520-8577 大津市京町4丁目1番1号

TEL:077-528-3453 Fax:077-528-4847

E-mail:biwako-es@pref.shiga.lg.jp

印刷/近江印刷株式会社

一部の画像は(公社)びわこビクターズビューロー提供

この冊子の制作は、
マザーレイク滋賀
応援寄附金を活用
しています。



なまえ